

## 蚊蜻蛉（かとんぼ）



家の中で寝っ転がって何気なく天井に目をやっていると、どこからか蚊蜻蛉（かとんぼ）がやってきて、見ているその天井に留まりました。

名前の「蚊」が示すように、手足がとても細長くていかにも「か細く、華奢」にみえました。

そういえば子供の頃、親父が

「蚊蜻蛉は天からの遣いやで。昔な、罪人として焚刑（ひあぶりの刑）にされそうになった若い男のところ、蚊蜻蛉が飛んできたんやが、その若い男はこういったん、そうな

「こんなところにおったらお前も焼け焦げになる。はよ、あっちへいね」ってな。ところがそれを聞いていた判官さんが、その焚刑を止めて、若い男を放してやったそうなんや。なんでや、言うたら、な

「そんな気持ちの優しい男に悪事ができるはずがない。放してやり」  
ってな」

それ以来、自分は「虫も殺せぬ」男になりました。

今でも、自分はいろんな虫を見るたびに、いろんな感情が湧いてくるのがよくあります。多分それは、この、親父の話のせいでしょう。